



3月の東日本大震災は多くの方の尊い命を奪い、財産や日常を瞬く間に押し流してしまいました。原発事故に伴う電力不足は広範囲にわたる不自由な生活を強制し、放射能汚染による恐怖は全世界を震撼させました。

目を覆いたくなるような惨状にかつて経験したことのない大きな衝撃を受ける一方、避難所で暮らす方々の姿は、人と人が互いに助け合い生きていくことの大切さを、被災地から遠く離れた私たちにもおしえてくれました。

当地区でも震災の発生直後から「何とか力になりたい」「ぜひ支援したいので地区の方針を打ち出してほしい」と数多くの皆様からのお声をいただきました。ロータリアンの意識の高さと、その気持ちを実行に移す行動力に改めて感動した次第です。

私たちの地区では震災発生と同時に対応の検討を開始、まずは義援金を地区内各クラブから集めさせていただき、全国の地区ガバナーにより構成されるガバナー会でとりまとめた上で、被災地の各地区へとお届けさせていただくことと致しました。すでに数多くの皆様の善意をお寄せいただいていることに、心から感謝申し上げます。

ところでこれまでの一連の動きの中で感じましたのは、皆が協力して大きな力を発揮しようとする際には、足並みを揃えて行動することがいかに重要であるか、ということです。それぞれに様々な思いもあろうかと存じますが、地区内約3800人の思いを一つにして力強い支援を現地に届けるためには、言いたいことも多少我慢して何よりも全員の力を結集することに意識を向けなければなりません。

各クラブ、各会員のご意見も多種多様であるのは当然

ですが、地区として行動する際には統率のとれた動きを実現するための協調も必要です。さもないとバラバラなアクションではせっかくのパワーも霧散してしまい、十分な効果が得られないおそれもあります。

そしてまた現地のニーズを真剣に考え、それに対して自分たちに何ができるのかを熟慮することも重要です。「現地へボランティアに行きたい」「救援物資を送りたい」という、ロータリアンとしていてもたってもいられない心情はよくわかります。ただ、せっかくの奉仕の精神が自己中心的なものになってしまわないよう、自戒しなければなりません。私たちが行動を起こそうとするとき、それが結果的に「相手から感謝されたい」「自分たちが満足したい」という自己の欲求を満たすためだけのものに終わってしまうリスクも内包していることを自覚すべきです。そのような罫に陥ってしまいかねない行動は、冷静に客観的に判断した上で厳に慎まなければなりません。仮に深く考える前に軽率な動きをとれば、今回のような非常時にはかえって混乱を助長するだけではないでしょうか。

動揺や不安が収束し、社会そして人々の心が少し落ち着きを取り戻せば、やがて復興に向けた動きが本格化するでしょう。まちの復興が具体的な形として見え始めれば、それが一筋の光となって人々の心に注ぎ、心の復興への希望の明かりとなるはずです。

まさにゼロからと言っていいと思いますが、地域をもう一度育てていくには数年、いや数十年かかるかもしれません。第2660地区の私たちも手に手つないで力と心を合わせ、3800人の足並みを揃えた息の長い支援を行っていきたいものです。皆様の深いご理解とご協調を、よろしくお願い申し上げます。